特定非営利活動法人 希望と輝きのまちひがしねを創造する

第38号 2019年6月

クリエイトひがしねニュース

発行 NPO法人クリエイトひがしね 999-3796 山形県東根市中央1-5-1 タントクルセンター内
TEL 0237-43-1155 www.higashine.org 発行責任者 菊地和博



あそびホールを訪づれたたドイツ訪問団
（本文２頁をご覧ください）

青い空の下で

メンタルヘルス・地域振興担当理事
髙 橋 京 子

令和の幕開けとなった今年の５月の東根は、日照時間が多くて青い空が広がる日が続き、開設６年目となったあそびあランドでは、広い空の下でのびのびと遊ぶ子どもたちの歓声が響きわたりました。10連休もあって５月のあそびあランドは大盛況でした。

いつのころからか、子どもたちは習いごとや塾などに時間をとられ、外で遊ぶ機会がなかなか得られない状況になってしまいました。そのような状況の中でも「あそびあランド」に来てあそぶことの出来る子どもたちは、本当に幸せな時間を過ごしていると思います。子どもたちは、自由な遊びの中で、考える能力や自立心を養い、コミュニケーション能力を育て、自分への自信と自己肯定感を持つことが出来るのではないでしょうか。このことは自己だけにとどまらず、まわりの人々への思いやりや優しさとなって表れ、豊かな人生を築いていく上でとても大切なことだと思います。

平成が令和になったといっても、時間の流れに区切りはありません。一ヶ月も経たない間に「子育て」に関わる悲惨な事件が相次ぎました。特に誰もが社会的・経済的にも恵まれた環境と思われる家庭に起きた事件は、貧困を起因とする多くの事件とは様相を異にします。この事件の家庭に何があったのか。報道から垣間見られるのは、勉強を強い、遊びを奪い、自己肯定感を育てられなかった子育ての結末のように思われます。

わが子の幸せを願わない親はいません。しかし、幸せとは何かと問われれば、それが立身出世だったり、金持ちになることだったり様々でしょう。親が敷いてくれたレールに乗れず疑問を持ったとき、自分を見失い、心を病み、引きこもってしまう。それが暴走したときに社会は震撼するのです。子ども時代の遊びから学べるものは計り知れません。様々な価値観、他者への思いやりや優しさ、それが社会との繋がりに結びつき生きる力となるのです。未来の担い手となる子どもたちに、私たちはまず「生きる力」を育てたいと願うものです。

日独青少年セミナー in ひがしね 開催！

6月8日（土）から三日間、（特）日本遊び場づくり協会の受託事業「日独青少年セミナーinひがしね」が東根を会場に開催されました。当日はドイツからの派遣団7名を迎えての子どものあそびをめぐる国際フォーラム、東根体験、あそびあランドや市内見学、そして歓迎パーティなど多彩なメニューで一行をお迎えしました。



花笠音頭にあわせて
笠回しを披露

初日は、子育て支援政策や取り組みについての説明やお茶会を開催、その後大けやき見学やさくらんぼ狩り体験に大興奮！　夜には今年の４月にオープンしたばかりの「東の杜」を会場に、ホストファミリーとの対面式や welcome パーティー！を行いました。



さくらんぼ耳飾り
のカーラさん

二日目は、「ドイツから学ぶ　遊びあふれるまち　東根へ！」をテーマに国際フォーラムinひがしねを開催。ゲルトさんからは、プレイバスの目的や遊びの本質について学び、第二部「ドイツの学びを日本で実践するため」として実践者のナディンさんとグリッドさんから事例をお聞きした。



大ホールで行われた
国際フォーラム



フォーラムで
紹介されたド
イツの大型プ
レイバス

午後からは、あそびあランドで「ドイツの遊び交流会」を開設、子どもたちは言葉や文字のカベをのりこえ、カルタ取りや遊びにチャレンジ。その姿はまさに「遊び」は国境を越えることを実感しました。



歓迎パーティで和やかに懇談

サプライズの
ドリンク

最終日は土田市長へ表敬訪問。東根市からサプライズでドイツカラーのドリンクを頂きました。市長はタントクルセンターとあそびあランドへの熱い思いを語りました。また子どもの権利条約について「今虐待など様々な事案が発生している。東根市としても権利条約について考えている」と話されました。



クマもビックリ
さくらんぼの爆食い



さくらんぼ種飛ばし
を楽しみました

ドイツでかかえる子どもの課題は、難民の増加、貧困、格差であり、プレイワーカーの職能が認められ、地位が確立し、移動遊び場の認知度も高い。一方、日本の活動は、地域に根ざした活動であり、地域住民の存在なしに成立しない。両国の良さを融合すれば、もっともっと遊びの価値が高まっていくだろう。

この３日間の事業で、国境を越えたネットワークがひろがり、関係性が深まったのではと思います。当法人のスタッフの協力とがんばりのおかげで「ひがしねスタイルのおもてなし」が出来たことも大きな成果でした。協力してくださったすべての皆さんに、心から〝ダンケ・シェーン〟です。

ほっこりあったか新聞

日々の出会いから生れたいい話

■みんなの母ちゃん

あそびあランドの企画に〝里山deあそびあ〟があります。「自然の中で親と子が共に育つ」共育をテーマに参加親子を募り、地域団体の協力を得て畑仕事や山遊び、川遊びに挑戦しています。この企画の協力者のひとり芦野みや子さんは、開講式でまず参加者に「私たちは今日から家族です」と語りかけます。畑仕事のプロである芦野さんには、お父さんたちの作業は手際もていねいさもまだまだのようで、「違う！違う！」と大きな声がとびます。はじめての参加者はその声にビックリ。毎年参加している方が「芦野さんは母ちゃんみたいなもんだよ。あれは愛なんだ」と笑いながら語っています。地域での子育ては、子どもだけが成長するのではなく、大人である親も成長することを実感しました。（あそびあランド・斎藤翔太）

■はじめの一歩

「子どもを出産してはじめて来た東根という町。知り合いもいなく、勇気を出して参加した。月齢ごとの子育てサロン。参加するうち子どもにも、私自身にも友達ができました。家では、べったりのわが子が、サロンでは私から離れることも・・あまり戻ってこないため心配になることもあります。子どもたちは自由に遊べることが楽しくて最高の笑顔を見せてくれます。そんな子どもの成長を笑って見守れる仲間がいるサロンに参加できよかったです」（お誕生会でのママからの一言）。子育て支援センターでは、ママたちのつながりを大切にしながら子どもたちの成長をみんなで見守っています。（子育て支援センター・渡辺友美）

■花に負けない輝きを

タントクルセンターの正面玄関を入るとピンクの可愛らしい花をつけたカランコエの鉢植えが飾ってあります。サークル活動をしている方からいただいた鉢植えです。月２回、自宅の庭に咲いている四季折々の花を持ってきてくれるのです。カランコエは挿し木で増やした花とのこと。「これからどんどん花が咲くよ、花があるといいでしょう」と受付に持ってきてくれました。我が家のように気にかけてくれるのはとても嬉しいことです。私たちもこの花に負けないで輝けるよう、笑顔で来館者を迎えたいと思います。（施設コーディネート・奥山節子）

■異年齢交流の風景

普段は幼児や小学生でにぎわう夕方のけやきホールに、その日は高校生のお兄ちゃん３人組が来ていました。その光景に興味津々の２歳の女の子。いつもはお母さんから離れない女の子でしたが、ひとりトコトコとお兄ちゃんたちの元に行き、何かお話をしている様子。そこに３～５歳児たちも集まって行き、なんと！一緒に遊び始めました。天井ネットや枝渡りネット、木登りの塔など、一人では怖がる子どもたちもお兄ちゃんたちと一緒だと挑戦できちゃうんです！２時間ぐらいずっと一緒に遊んでくれたお兄ちゃんたちに周りのお母さん達も関心。最後は「また遊ぼうね～」とタッチをして帰っていきました。異年齢交流ができるけやきホールの魅力を実感した出来事でした。（けやきホール・高橋幸江）

遊びは大人になるための準備②



村田民雄くんの巻

（広報・地域振興担当理事）

昭和20年８月15日は日本が戦争に負けた日です。戦後の貧しい時代に少年期を過ごしたわが世代は、空腹を抱えながら遊び呆けていました。近くの大日山（だいにっつぁま）は、夏は秘密基地、冬はスキー場、鳥居の前には毎日紙芝居がやって来る。子どもたちは「入場料」５円玉を握りしめて集まり、水飴なめながら紙芝居を見るのです。お金のない子は後ろの外野席に押しやられるのですが、気づかれないようににじり足で前進します。2、3歳の「あぶら子」たちは兄姉たちに連れられて「だいにっつぁまデビュー」を果すのでした。

高学年になると遊び場は若木山に移ります。ある時、親がいない隙に木の上に巣くっているカラスの子を、巣ごと持ちかえり飼育する悪だくみを考え出しました。小屋にりんご箱で巣箱を作り、近くの田んぼでカエルをつかまえて来て餌にしました。若木山の上空では子どもを盗られた親ガラスの鳴き声が聞こえました。子ガラスは献身的な飼育の甲斐もなく一週間ほどで死んでしまいました。何ということをしてしまったと後悔しても後の祭り、カアカアと鳴いて空を飛んでいるカラスをみると、今でも当時のことが思い出され心が痛みます。

2019年
連続講座

子ども若者の居場所づくり入門



全国的に「生きづらさ」を抱えた子ども若者が増えています。
今なぜ「居場所」が必要なのでしょうか。
当事者やご家族、力になりたい方の参加をお待ちしています。



第1回 「なぜ、居場所が必要なの？」
★6月22日（土）19:00～20:30

第2回 「居場所とは？」
★7月6日（土）19:00～20:30

第3回 「今、私たちにできることとは？」
★7月20日（土）19:00～20:30

講師　滝口克典

たきぐちかつのり　1973年東根生れ。大学院修士課程終了後2年間高校教師を務め、01年に不登校支援NPO「フリースペースSORA」の立ち上げに参画。03年に不登校の子どもに限定しない開かれた「居場所」とリベラルな「学びの場」を提供する若者支援NPO「ぷらっとふぉーむ」を立ち上げる。

会　場　さくらんぼタントクルセンター視聴覚室
参加費　無料（定員50名）
申込み　あそびあらんど（TEL0237-43-5551）

共催　寄り添う親たちの会「ちぇり～ず」
事務局　村山恵子・細谷由紀
連絡先　あそびあランド TEL0237-43-5551

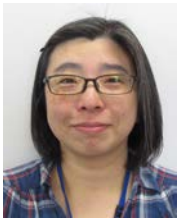
新メンバー紹介

大　山　輝　美



４月から施設コーディネーターとして勤務しております。大石田町から通っています。私がさくらんぼタントクルセンターに来て最初に驚いた事は子どもたちの可愛い笑顔と元気なあいさつが、館内に響いていることでした。子どもたちの大きな声には、とても圧倒されました。また来館者の年齢層も幅広く、市民の方に親しまれている施設だと感じました。たくさんの方に親しみを持って来館していただけるよう諸先輩に習い、ていねいな対応が出来るよう頑張ります。

細　谷　祐　子



４月からけやきホール、加えて６月からファミリーサポートセンターに勤務しています。河北町で生まれ育ち、東京で就職、昨年河北町に戻って来ました。今、久しぶりの故郷を堪能しています。勤務の中で、子どもたちの素直な「まぜて」「あそぼう」の声を聞き、安心できる空間だからこそ思いっきり遊べるんだなと感じています。これからも来館者の皆様に安心してご利用頂けるように努めていきたいと思います。よろしくお願いします。

賛助会員募集

ひがしねの子どもたちの健やかな成長のために皆さんの力をお貸しください

個人・団体・事業所様からの財政的な支援をお願いしております。詳しくは事務局にお問い合わせください。

一口　2000円より

編集後記

★当法人では「あそびあタイム」や「ぎゅっと」等それぞれの分野で会報を作っていますが、「クリエイトニュース」は組織全体の活動を皆さんに伝える役割を持っています。しかし、これまで発行した37号を振り返ってみると毎年定例化された企画の繰り返しを伝えていることに気が付きました。活動の記録は大切なことですが、それらの活動にかかわってきた私たちの成長の記録も、これからの活動に役立つのではと思いました。そんなことで今号からスタッフの顔が見える紙面を心がけています。（M）